

この日は、856回目となる平和祈念式で、朝から5年生が献花用の花を持ってきてくれました。ありがとうございました。

今日の祈念式では、3年生の先生から「カラスザンショウ」と「双子グス」についてのお話がありました。また、「カラスザンショウとふたごぐす」という歌の紹介もありました。

その後は、各学年の場所で、献花や黙祷、平和学習を行いました。



○カラスザンショウはミカン科の樹木で、この木をえさにするアゲハチョウもいて、たくさんの生き物たちが集まる、生命力あふれる木だったと思われる。また、周りの木々にもた

くさんの鳥がとまり、美しい声でさえずり、すてきな樹木園だったろう。

○1945年8月9日、原子爆弾によって城山小のほとんどの樹木が焼け落ちてしまった。校舎も、一瞬のうちに破壊された。

○周りのほとんどの樹木が倒れ、焼けてしまった中、このカラスザンショウは生き残った。しかし、生き残ってはいても、幹全体の皮ははがれ落ち、今にも倒れそうな状態だった。そんなカラスザンショウを支えていたのが、隣にあったムクノキだった。

○ムクノキと共に生きてきたカラスザンショウは、見る人に勇気を与え続けてくれた。しかし、2016年の大雪で枯れてしまった。

○多くの人が悲しみ、保存を訴えた。その声を受け、カラスザンショウは保存処理をされ、その場所に姿を留めていた。ところが、年々傷みがひどくなり、その姿を留めておくことが難しくなった。そこで、2021年7月、殺菌処理や薬剤塗布を行い、平和祈念館の2階に移設された。

○「双子グス」は、原爆落下前は1本のクスノキだった。原爆で燃えた後に新し芽が芽吹いて、二股になって成長した。死んでしまったと思われたクスノキから芽吹き、大きく成長していく様子は、被爆した人々の心を励ましたと言われている。

○被爆後77年経った今も、クスノキは平和坂の登り口で大きく成長した姿を私たちに見せ、生きる力を与え続けている。

○「カラスザンショウ」と「双子グス」は、私たちに「支え合うこと」「強く生きていくこと」を教えてくれているのではないだろうか。

カラスザンショウとふたごぐす (平成14年度城山小学校3年生 作詞・作曲)

原爆うけたクスノキは ビカッと光った あのしゅんかん
からだ全部 ふきとばされた 友だちも家も もえていく
空まで上がる まっかなほのお
だいすきな城山のまち どうなってしまうのだろう
みどりの森は もどらないの

*一番の歌詞のみ紹介しています。

